第６学年　国語科学習指導案（「C読むこと」説明的な文章）

１　**単元名**　　筆者の考えを受け止め，自分の考えを伝えよう「平和のとりでを築く」

２　**目標**（「C 読むこと」イ，エ，オ）

「取出」形式段落の要点をまとめ，文章を要約することができる。

「解釈」引用文中の言葉を自分の知識とつないで敷衍したり，対象についての書き表し方の違いの意図を文脈に位置付けてとらえたりして，結論の言葉の意味を読み取ることができる。

「熟考」平和は弱い心に打ち克つことで成立し，守り伝えていくのは他ならぬ自分であるという，筆者の平和に関する見方・考え方に対して，自分の見方・考えをもつことができる。

※　「読み方」の重点

○　キーワードを，自分の知識や経験とつないで敷衍して読む[連ﾀ]

○　まとめの段落の言葉を，外したり比べたりして読む[連ﾊ]

○　それまでの言葉や事例とつないで，まとめの段落の言葉の文脈における固有の意味を読む[連ﾋ]

○　題名とまとめの段落の言葉の意味をつないで，要旨をまとめる[連ﾌ]

○　筆者の主張や意図と，自分の見方・考え方を比べて，感想をもつ[連ﾑ]

３　**指導観**

○　本学級の児童は，下記の二つの調査から，めあてに対する「取り出し」はできるが，「解釈」「熟考・評価」は不十分であり，書く活動に抵抗があるという実態が分かっている。

まず，読解力の調査では次のような結果が出ている（表ー１）。

表ー１　本学級児童の「読解力テスト」結果

	得点率（%）			得点率が 50%以下の児童数（36 名中）
	その１問題	その２問題	合計平均	
「取り出し」	82.4	80.6	81.5	５名
「解釈」	54.9	54.9	54.9	19 名
「熟考・評価」	53.7	50.9	52.3	16 名

この結果から，児童の読解力において，「解釈」「熟考・評価」に課題があることが分かる。特に，「解釈」に関しては，過半数の児童が 50%以下であり，「解釈」できる児童とできない児童の差がはっきりしている現状がうかがえる。

次に，意識の調査では次のような結果が出ている（表ー２）。

表ー２「説明文の読みにおける書く活動の意識調査」（４尺度選択）結果の市内９校の児童と本学級児童の比較

	質問項目	肯定２尺度の割合（%）		
		※市内	本学級	比
関心意欲	説明文の学習は好きですか？	56	55	▼　1
読解	言葉の深い意味や筆者が言いたいことなど，問いやめあてに対する答えは分かりますか？	72	75	3
書く活動①	授業で考えを書く活動はありますか？	93	95	2
	その時，何をどのように書くか分かって書くことができていますか？	82	78	▼　4
	考えを書くことは好きですか？	60	42	▼ 18
書く活動②	授業の終わりにまとめを書く活動はありますか？	93	89	▼　4
	その時，何をどのように書くか分かって書くことができていますか？	81	80	▼　1
	まとめを書くことは好きですか？	65	50	▼ 15

※「市内」＝福岡市小学校９校の６年生 855 人を対象に実施

各意識とも，市内全体と同様，あるいは低い様相を呈している。書く活動が「好きですか？」の問いに対する値が低く，書く活動への抵抗感が顕著となっている。それは，「解釈」の低得点率

からも分かるように，何を書けばよいのかが分からない，すなわち「解釈」が分からないために，書く活動への抵抗感が大きいのではないだろうか。

以上の言語能力面の実態がある一方，「平和」に関する内容面での実態としては，次のような傾向が見られる。

・長崎への修学旅行で学んだ被爆者の辛さ，原爆への怒りを忘れずに，これから周りの人と仲良く生きていきたい。
・戦争がなぜなくならないのか，ぼくには信じられない。ぼくたちの時代には，戦争を絶対になくしたい。

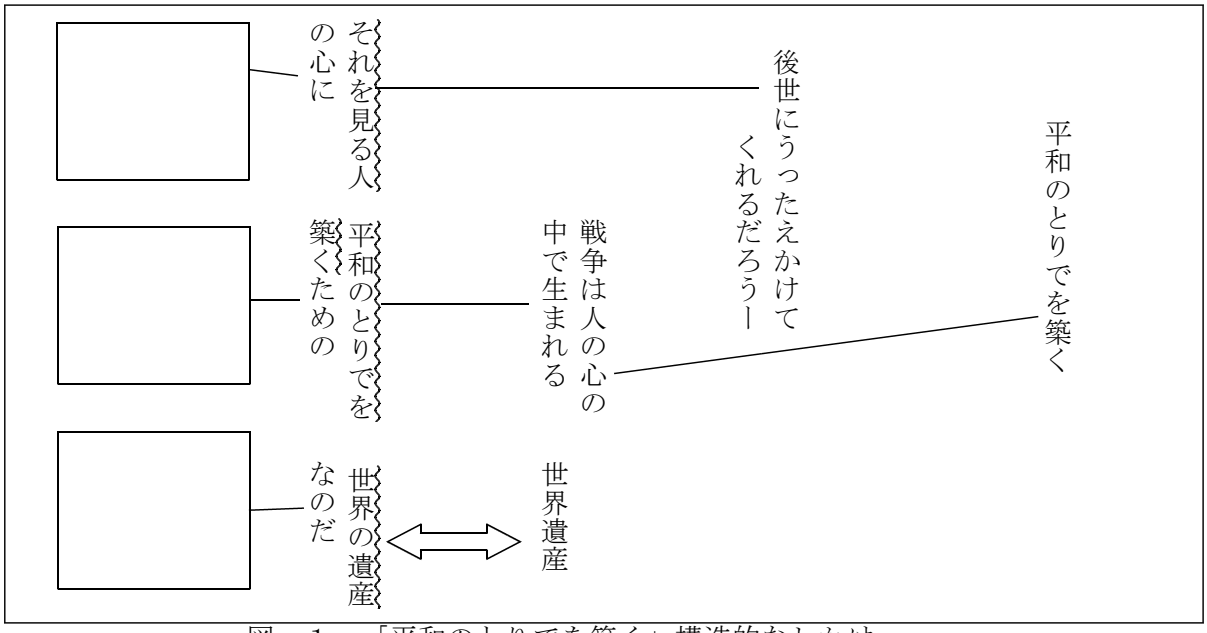
（本単元学習前の「戦争や平和についてどう思っているか」）

従前の平和学習とも合わせて，児童の平和に関する意識は高いと言えよう。ただ，その意識は，平和への願いといった漠然としたものにとどまっており，核兵器廃絶への希望という人類の可能性を信じるまでには至っていない現状である。それは，ほとんどの児童が「第三次世界大戦が起きるかもしれない」と答えていることからも分かる。

本学級の児童には，筆者の説く平和への世界的な可能性をもたせる上からも，「解釈」とはどういうことか確かに理解した上で自分の言葉で書く力を育成することが必要である。

○　本単元は，説明的な文章「平和のとりでを築く」から筆者の考えを受け止め，平和に関する意見文を書き自分の考えを伝える構成となっている。そのためには，まずは「平和のとりでを築く」の叙述から筆者の表現の意図を読む読解の学習が大切となる。

「平和のとりでを築く」は，元中国新聞論説主幹で広島平和文化センター理事長だった筆者大牟田稔さんの平和への思いがつづられている。被爆者に寄り添いながら世に訴えていく元ジャーナリストらしく，出来事とそれにまつわる人々の思いが継時的に表現され，説得力のある文章となっている。具体的には，一少女の思いが広島市民と役所を立ち上がらせ，報道によって全国へと広がり，世界遺産となり，世界の遺産となるまでの人々の気持ちの強さと後世の平和への確信が，点から線，面，空間，そして時間軸への広がりと，民意が制度を作り，そしてまた民意となっていく深まりが表現されている。叙述としては，最終段落の中心叙述である「それを見る人の心に」「平和のとりでを築くための」「世界の遺産なのだ」のそれぞれが，それらを支える前の叙述とつなぐことで「解釈」できるように，しかけが施されている。そのしかけを読み解く学習展開が必要である。



図ー１　「平和のとりでを築く」構造的なしかけ

○　そこで指導にあたっては，「解釈の技法」を用いて構造的なしかけを読み解くように，PISA 型「読解力」のプロセスに合わせて児童の問題解決への意識を高め，「読み方」と「まとめ方」を

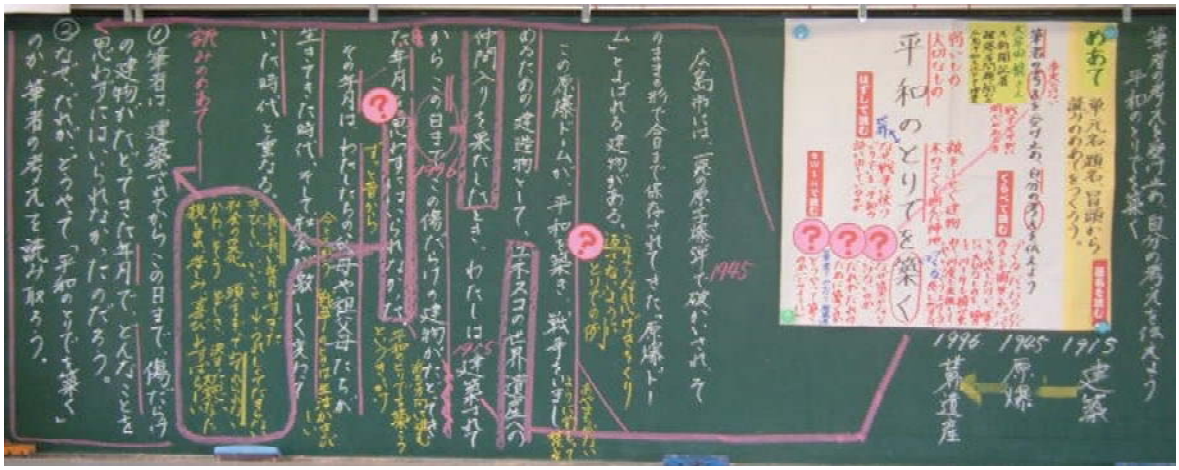
重視して一時間の学習を展開するようにする。

まず，「情報の取り出し」プロセスでは，題名と冒頭から「読みのめあて」を生み出し，各段落の要点から「読みのめあての答１」をまとめ，最後の段落から「読みのめあての答２」を導き出す。その話し合いにおいて，構造的なしかけである，「それを見る人」「平和のとりでを築く」「世界の遺産」の読みの重なりやずれを明確にし，それぞれを前の文章や体験と関連付ける「学習計画」を立てる。具体的には，「それを見る人」は前の叙述との関連付け，「平和のとりでを築く」は自分の知識や経験からの想像，「世界の遺産」は「世界遺産」などとの比較という，「解釈の技法」を基にした「読み方」の提示である。

次に，「テキストの解釈」プロセスでは，「学習計画」に沿って，３点の「解釈」を書く【書く活動１】と，それらを話し合って深まったまとめとなる【書く活動２】を充実した「読み確かめ」を行うようにする。そのために，「読み方」を明確にして提示・発問するとともに，児童の読みを把握した授業カルテを基に構造的な話し合いとし，板書を基に，３点の読みを自分の読みの変容・深化が分かるように書きまとめる「まとめ方」を提示するようにする。

最後に，「熟考・評価」プロセスでは，「読み確かめ」によって変容・深化した読みを基に，平和に関する自分の考えを書きまとめ，お互いに交流することで，平和に関するものの見方・考え方を広げていくようにする。そして，本単元で学習した「読み方」を振り返り，次の学習で活用できるようにチェックするようにする。

４　学習指導計画（「読むこと」９時間）

過程	時	主な学習活動と指導上の留意点(※) ◆「読解力」表(P6 表－３・P7 表－４)との関連［連：連続型　非：非連続型］
情報の取り出し	読み確かめ 0 1	1　本単元の学習前の，「戦争」「平和」に対する自分の見方・考え方を書く。 2　単元名から読みの構えを作る。 3　題名と冒頭から読みのめあてを作る。 (1) 題名「平和のとりでを築く」を読む。 ※　「平和，とりで，築く」の意味を自分の知識で敷衍し，なぜだれがどうやって築くのか，疑問をもたせる。◆［連イ］［連タ］ (2) 冒頭を読み，読みのめあてを生み出す。 ※　「平和を築き，戦争をいましめる」と題名を比べ，疑問を残す。◆［連チ］ ※　「思わずにはいられなかった」とはどういうことなのか課題をもつ。◆［連ニ］ 読みのめあて 1　筆者は，建築されてからこの日まで，傷だらけの建物がたどってきた年月で，どんなことを思わずにはいられなかったのだろう。 2　なぜ，だれが，どうやって，平和のとりでを築くのか，筆者の考えを読み取ろう。 
	読み 2	3　全文を読み，難語句の意味を調べたり，新出漢字の練習をしたりする。 4　読みのめあて１の答をまとめる。 (1) 読みのめあて１の答を年表形式の学習プリントに書く。

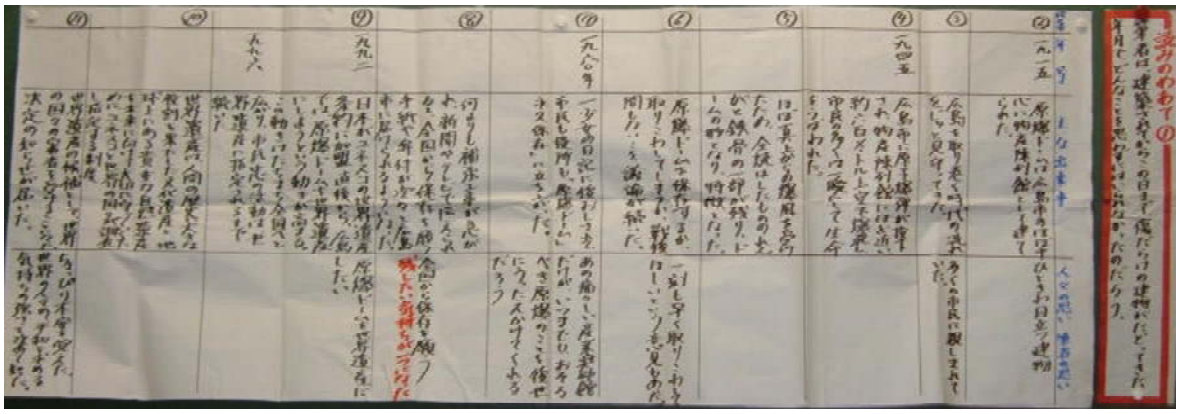
めあての答

※　題名やめあてにつながる言葉，形式段落の中で最も大事な文を探す「読み方」で，形式段落の要点をまとめさせる。◆[連ｽ]

3　(2) 出し合いながら，⑪段落の「世界の人々の，平和を求める気持ちの強さを改めて感じたのだった」までの変遷をとらえる。◆[連ﾋ]

読みのめあて１の答

親しまれていた物産陳列館に原爆が落とされ原爆ドームとよばれ，取りこわしてほしいとまで言われたが，一少女の「いつまでもおそるべき原爆のことを後世にうったえかけてくれるだろう」という思いから，保存運動が広まり，世界遺産にという動きが高まり，世界遺産に指定され，世界の人々の平和を求める気持ちの強さを改めて感じ，筆者は，苦しみや喜びを思わずにはいられなかった。



4 5　読みのめあて２の答を書く。

※　題名に着目し，⑬段落に答があることを確かめ，最後の文をどうとらえるか，比べたりつないだりする「読み方」を示す。◆[連ﾍ]

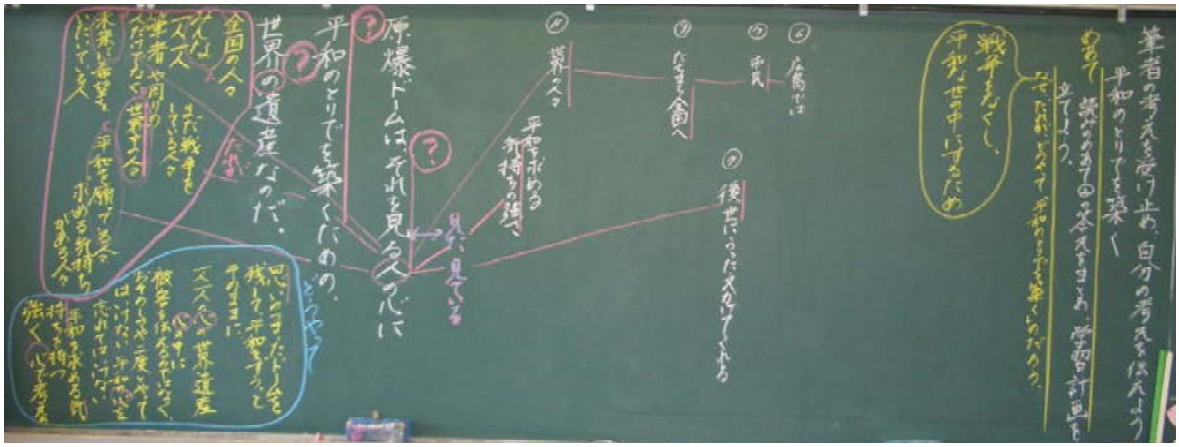
学習計画

5 6　読みのめあて２の答を出し合い，読み確かめる学習計画を立てる。

読みのめあて２の答

戦争をなくし平和を守るために，全国，世界，これからの人たちが，心を強くしていってほしい。

※　「だれが」は「それを見る人」の解釈が多様となり，「どうやって」も「平和のとりでを築く，世界の遺産」の解釈が多様となる。そこで，根拠を改めて比べたりつないだりして詳しく解釈することで，答を確かにするという学習計画を立てる。◆[連ﾋ]



テキスト読み確かめ

6 7　「それを見る人，平和のとりでを築く，世界の遺産」の解釈を書く。【書く活動１】

(1) 「読み方」を確認する。

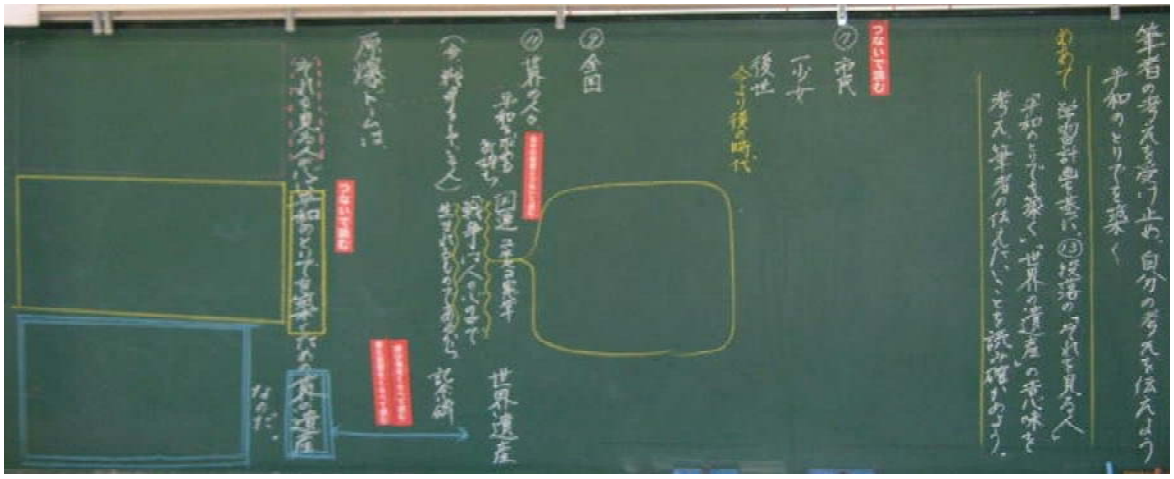
※　この話に出てきた「人」とつないで，「それを見る人」を解釈させる。◆[連ｵ][連ﾋ]

※　直前の引用文中の「戦争は人の心の中で生まれる」とはどういうことか，自分の知識や経験から敷衍させ，その上で，「人の心の中に平和のとりでを築く」とはどういうことか解釈させる。◆[連ﾀ][連ﾏ]

※　「記念碑」や「世界遺産」と比較させ，「の」の意味を解釈させる。◆[連ツ][連ハ]

(2)　【書く活動１】を行う。

※　「読み方」に対応したスペースを入れた学習プリントに書かせる。



７８　【書く活動１】を基に，「それを見る人」「平和のとりでを築く」「世界の遺産」の解釈について，話し合う。

（本時）

(1)　「世界の遺産」の解釈を話し合う。

※　「読み方」を基に，「制度」ではなく認められたことであることや，「後世」に遺すもの，守り続けるものという，文脈における固有の意味をとらえさせる。◆[連ツ][連ハ]

(2)　「平和のとりでを築く」の解釈を話し合う。

※　「戦争は人の心の中で生まれる」の具体化は，学習経験だけでなく，生活経験とつないで，心の中を語らせるようにする。◆[連タ][連マ]

※　「人の心の中に平和のとりでを築く」も，例えば，「頑丈」「バリケード」といった，児童なりの表現を広めるように，カルテを生かして発言の指名をする。◆[連タ]

(3)　「それを見る人」の解釈を話し合い，まとめる。【書く活動２】

※　最後に「一少女」の言う「後世」や「わたしたち」とつないで，「それを見る人」には，全国，世界，これからの人々はもちろん，自分も入っていることを発見させる。◆[連ヒ]

※　文末表現「なのだ」の確信とつないで，築いていける希望を読み取らせる。　◆[連ナ]

※　板書の「ぼくたちわたしたち」「弱い心に負けない心」「一人一人が大切にする」といった深まった解釈を指し示しながら，どのように変わったかが分かるように書く，「まとめ方」を指示する。

熟考

８９　本単元の学習後の，「戦争」「平和」に対する自分の見方・考え方を書き，発表し合う。

※　学習前に書いたものと比べながら，前時の【書く活動２】を基に，変容した自分の見

・ 評 価		方・考え方を書かせる。◆[連ﾑ] 10　読み方を振り返る。 ※　「読み方」を３段階でチェックさせる。
	9	11　評価テストを行う。

５　**本時の目標**（７／９「テキストの解釈」）

○　それまでの言葉や事例とつないで，まとめの段落の言葉「それを見る人」の文脈における固有の意味を読む。◆[連ﾋ]

○　自分の知識や経験とつないで，まとめの段落の言葉「平和のとりでを築く」を敷衍して読む。◆[連ﾀ]

○　「世界遺産」「記念碑」と比べて，まとめの段落の言葉「世界の遺産」の文脈における固有の意味を読む。◆[連ﾊ]

６　**本時指導の考え方**

前時に，児童は「それを見る人」「平和のとりでを築く」「世界の遺産」について，前の言葉とつないで読む，自分の知識や経験とつないで読む，似ている言葉と比べて読むといった「読み方」で，学習プリントに解釈したことを書いている【書く活動１】。本時は，書いた解釈を基に話し合い，深まった解釈を書きまとめる【書く活動２】時間である。

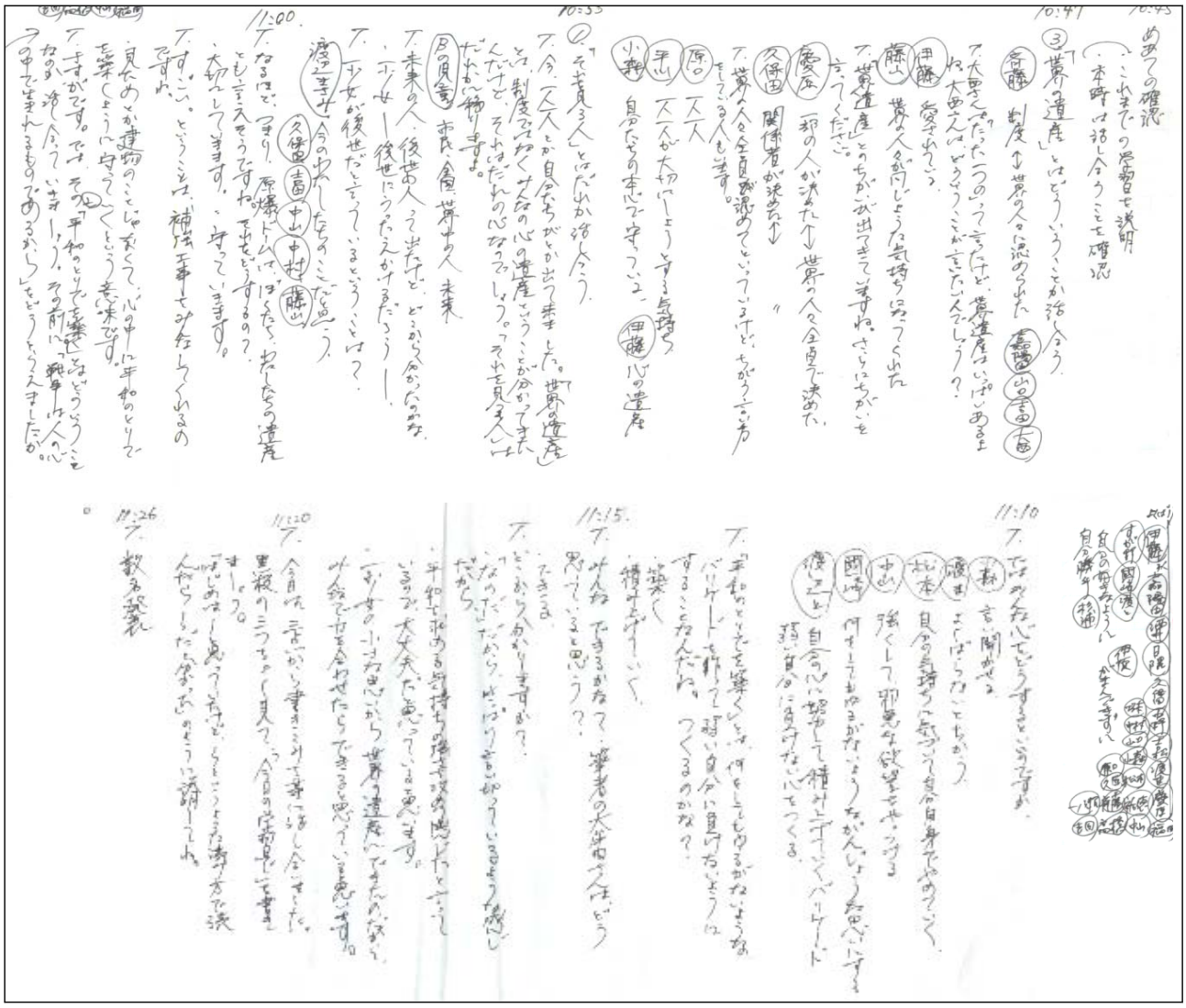
そこで，まず，めあてを話させ，３点の解釈の話し合いを通して，筆者大牟田稔さんの意図を推論することを確認する。次に，児童の書いたものをまとめたカルテ（座席カルテ表）を基に，３点がどういうことか話し合わせる。その際に，どのように解釈したのか分かるように，関連付けた言葉などを説明させるようにする。話し合う順は，叙述の順である「それを見る人」「平和のとりでを築く」「世界の遺産」でもよいが，「それを見る人」の解釈の一つである「わたしたち自身」が児童にとって本時の新発見となると考えられるので，逆の「世界の遺産」「それを見る人」「平和のとりでを築く」の順とする。そうすることで，世界みんなが守ろうとするのが「世界の遺産」。世界のみんなとは誰のことかというと「それを見る人」のことで，全国，世界，後世の人々のことだけど，もちろんわたしたち自身も入る。わたしたち自身が，自分の弱い心を強くして，心に「平和のとりでを築く」ようにしなければならない。そんなメッセージを，筆者は伝えようとしている。といった解釈へと深まっていくと考えた。その中で，前時の【書く活動１】の際に確認した３点それぞれの「読み方」をカードによって今一度意識させていく。「平和のとりでを築く」の敷衍は，そこだけでは児童にとって解釈するのにハードルが高いので，直前の「戦争は人の心の中で生まれるものである」を自分の知識や経験とつないで敷衍させた上で，それを生まれさせないようにする自分の解釈を考えさせるようにする。最後に，本時の学習のまとめを，前時に書いた解釈からの変容が分かるように，３点の深まった解釈を書きまとめるように，板書を基に振り返って「まとめ方」を示す。その際に，「ぼくたち，わたしたち」「弱い自分に負けない心」「一人一人が大切にしようとするもの」といった，本時学習で深まった解釈をキーワードとして出させるようにする。

7　本時の展開

学習活動と内容	指導上の留意点 ◆「読解力」表(P6 表－３・P7 表－４)との関連［連：連続型　非：非連続型］
1　めあてを確認する。	※　それまでの言葉とつなぐことで，まとめの 13 段落の言葉の文脈の中での固有の意味をとらえる学習の目的を明確にさせる。
学習計画を基に，「それを見る人」「平和のとりでを築く」「世界の遺産」の意味を考え，筆者の伝えたいことを読み確かめよう。	
2　書いたことを基に話し合う。 (1)「世界の遺産」とはどういうことか話し合う。 ○　「世界遺産」と比較して解釈する。	※　前時に書いた読み取りを，授業カルテを基に，発問・指名・問い返しを繰り返しながら出し合わせ，深めていく。 ※　「世界遺産」が 10 段落にもあるように制度的なものであることに対し，「世界の遺産」は，大切にしよう，後世まで遺そうという世界の人々の思いがつまったものという認識を，「の」の一文字から読むことができる，はずすあるいはくらべる「読み方」のよさを実感させる。そのためには，「制度じゃないなら何なのか」といった発問が必要となる。　◆［連ハ］
○　「記念碑」と比較して解釈する。	※　12 段落の「記念碑」と比較することで，「記念碑」は後世に遺すような形あるもので，もうそれが完成しているようにとらえることができるが，「世界の遺産」の場合，形あるものではなく，世界の人々が胸に抱き続ける思いであり，それはわたしたちを含め後世の人々がつないでいく永遠のものととらえることができる。そのためには，「それは記念碑のように完成したものか」といった発問が必要となる。　◆［連ツ］
(2)「それを見る人」とはだれのことか話し合う。 ○　「全国」「世界」「後世」の人々 ○　「わたしたち」，すなわち読み手であるわたしたち	※　それまでの段落の言葉から，「人」に関係するものを選ばせながら，空間的（広島→全国→世界）・時間的（過去→後世（現在→未来））・人称的（第３人称→第１人称）に解釈を拡げていく。 ◆［連ヌ］
(3)「平和のとりでを築く」とはどういうことか話し合う。 ○　「戦争は人の心の中で生まれるものである」とはどういうことか，自分の知識や経験とつないで解釈する。	※　既習の平和学習や歴史学習の中の「戦争は人の心の中で生まれる」例と照応し，領土欲や資源欲，制裁や憎しみなどから戦争が生まれることを想像させる。　◆［連タ］ ※　自分の生活経験とつないで，どんなときに欲が生まれるか，けんかになるか想起させ，「戦争は人の心の中で生まれるものである」を児童なりの目の高さで解釈させる。　◆［連タ］
○　「平和のとりでを築く」とはどういうことか，「戦争は人の心の～」の解釈と関連付けて解釈する。	※　どうすればその心が生まれないようにできるか考えさせ，「平和のとりでを築く」を自分の言葉で表現させる。その際に，授業プランに沿ってモデルとなる児童の解釈を発表させながら，考えさせるようにする。　◆［連タ］
3　「今日の学習で」を書き，本時学習をまとめる。 (1) キーワードを確認する。	※　板書を基に，「それを見る人」「平和のとりでを

○「それを見る人」…わたしたち ○「平和のとりでを築く」…自分の弱い心に負けない ○「世界の遺産」…一人一人が大切にしようとする (2) 「今日の学習で」を書きまとめる。【書く活動２】 (3) 数名が発表する。	築く」「世界の遺産」の解釈を振り返り，キーワードを問う。 ※　キーワードを使っているか助言しながら，机間指導を行う。

８　本時の授業プラン



表－３連続型テキスト(説明的文章)の「読み方」表

PISA 型「読解力」のプロセス	連続型テキスト(文章)を読解する力	具体的な「読み方」
Ⅰ情報の取り出し	１事実と意見を区別する力(文種判断)	ア文末表現から事実と意見を区別する
	２大事な言葉を見付ける力（キーワード発見）	イ題名や文章の言葉の意味に疑問をもつ(５Ｗ１Ｈで？を作る) ウ指示語の指す言葉を見付ける エ題名の類縁語や題名につながる言葉(キーワード)を見付ける オ疑問詞や文末表現を基に，問いの文を見付ける カキーワードや文末表現から理由になる文を見付ける キキーワードや文末表現から問いの文に対する答の文を見付ける
	３大事な言葉を基にまとめる力　(要約)	ク形式段落に番号を打つ ケ形式段落の中の最重要文を題名や問いの文とつないで見いだす コ形式段落の中のキーワードを見いだす サ時間の順序や事柄の順序を読む シ接続語を基に主張と事例を区別する ス形式段落の要点をまとめる セ接続語や形式段落の要点を基に文章を意味段落に分け，小見出しを付ける ソ意味段落の小見出しや形式段落の要点を基に，文章全体を要約する
Ⅱテキストの解釈	４言葉と自分の知識や経験などをつないで想像し説明する力(想像)	タ題名やキーワードを，自分の知識や経験とつないで敷衍して読む
	５言葉を外したり比べたりして意味を理解し説明する力　(比較)	チ修飾語などの言葉を外して比べ言葉の意味を読む ツ類縁語と比べて，言葉の意味を読む テ段落と段落を比べて，共通点と違いを読む ト別の助詞に置き換えて，助詞の意味を読む ナ別の文末表現に置き換えて，文末表現の意味を読む
	６言葉と言葉などをつないで意味を理解し説明する力（関連付け）	ニ段落の中で，中心となる言葉とそれを支える言葉をつないで，文脈における固有の意味を読む ヌ段落を越えて，中心となる言葉とそれを支える言葉をつないで文脈における固有の意味を読む ネさし絵や写真などと言葉をつないで，言葉を敷衍して読む ノキーワードを，他の文章とつないで敷衍して読む
	７事例にフィードバックして抽象的な言葉の意味を理解し説明する力(関連付け)	ハまとめの段落の言葉を，外したり比べたりして読む ヒそれまでの言葉や事例とつないで，まとめの段落の言葉の文脈における固有の意味を読む フ題名とまとめの段落の言葉の意味をつないで，要旨をまとめる
	８筆者の意図を推論し説明する力(推論)	へ(接続語を基に)文と文，段落と段落を比べて，繰り返し表現，事例の数や事例の順序，関係から，筆者の設定の意図を読む ホ引用の意図を読む マ題名に返り，この題名で何を伝えようとしていたか，筆者の意図を読む
Ⅲ熟考・評価	９筆者の主張や意図に対する自分の考えをもち，論述する力（内容批判）	ミまとめの段落への納得や驚きの実感を表現する ム筆者の主張や筆者の意図と，自分の見方・考え方を比べて，感想をもつ
	10文章の表現方法(論理展開や表記）の妥当性を評価する力（表現批判）	メ筆者の論理展開に対して感想をもつ モ筆者の表記（書き表し方）の特徴を見付けて感想をもつ ヤ筆者の論理展開を活用して，他の対象で再構成する

表－４　非連続型テキストの「読み方」表

PISA 型「読解力」のプロセス	非連続型テキスト(図，グラフ，表)を読解する力	具体的な「読み方」
Ⅰ情報の取り出し	１各種のテキストから必要な情報を読み取る力（言語化・数値化）	ア表題や出典などを確認する イ社会科の既習を活用し，目的に応じて，矢印や括り，位置などから，上位・下位概念，包含関係，時間経過などを言語化する(図) ウ国語科の既習を活用し，言語化する(写真・絵) エ社会科の既習を活用し，目的に応じて，方位，縮尺，地図記号，土地の高さ，分布項目などに留意して言語化する(地図) オ算数科の既習を活用し，目的に応じて，縦軸と横軸に着目して数値化する(グラフ) カ算数科の既習を活用し，目的に応じて，項目に着目して(二次元表の場合はクロスの意味も考えて)言葉や数値を取り出す(表) キ社会科の既習を活用し，目的に応じて，時代名や年号の並び，関連する出来事に着目して，情報を取り出す(年表)
Ⅱテキストの解釈	２情報と自分の知識や経験などをつないで想像し説明する力（想像）	ク目的に応じて，一部分を詳しくとらえたり全体を大まかにとらえたりして，自分の知識や経験とつないで敷衍して読む
	３情報の違いや変化を理解し説明する力（比較）	ケテキストの情報を比較し，共通点や相違点を見いだす
	４他のテキストとの関係を理解し説明する力（関連付け）	コテキストとテキストの情報のつなぎ方が分かり，関係を認識する
	５社会的事象の意味を理解し説明する力（関連付け）	サ一つのテキストの中や，複数のテキスト間における関係の認識を基に，因果，包含，変容，深化，具体化(拡張，多面化)，抽象化(収斂)などの関係性を見いだす
	６テキストを提示する意図を推論し説明する力（推論）	シ意味認識を基に，提示者の主張の明瞭性，具体性，強調性を明確にする
Ⅲ熟考・評価	７関連付けるテキストの種類の妥当性を評価する力（内容批判）	ステキスト提示の目的に合致しているかどうか，他の種類のテキストと比較して検討する
	８関連付けるテキストの表現の妥当性を評価する力（表現批判）	セテキスト提示の目的に照らして，テキストの範囲(部分⇔全体)や明瞭性を検討する